

平成29年度防災ボランティアコーディネーター 養成講座を開催しました



甚大な被害を及ぼす災害が田原市を襲った時、全国から駆けつけてくれるボランティアの受入れや活動先の調整など、災害ボランティア活動の中核的な役割を担う「防災ボランティアコーディネーター」の存在が不可欠です。

7月29日（土）、30日（日）の2日間にわたり、あつみライフランドにて、防災ボランティアコーディネーター養成講座を開催しました。

1日目は参加者14名の皆さんが田原市防災対策課から田原市の防災対策について概要説明を受けた後、災害ボランティアグループVOCS田原の講師陣から、災害ボランティアに関する講義、被災時に役立つロープワーク実技等を学び、2日目は実際に災害が起きた時に『災害ボランティアセンター』を立ち上げる演習を行いました。

2日間の終わりに、受講生全員に修了証と防災ベストが手渡されました。



1日目の講義の様子



2日目の演習の様子

防災ボランティアコーディネーターに求められるのは、発災時のみではなく、平常時から『災害に強いまち』をつくること。その意欲を持ち続けていただくために、8月26日（土）田原市総合防災訓練、平成30年開催予定のフォローアップ講座への参加も呼び掛けて、養成講座は終了しました。

南海トラフ地震 ～災害に対する家庭での備え～

田原市で発生が心配される地震に「南海トラフ地震」があります。南海トラフ地震とは、駿河湾から宮崎県沖に延びる海底のくぼみ（南海トラフ）の一角を震源域（震源断層域）とする地震で、東海、東南海、南海地震の震源域をひと回り大きくした区域が、揺れたり、割れたり、滑ったりして巨大地震を発生させます。今後30年の発生確率は70%程度と予想されています。

災害による被害をできるだけ少なくするためには、一人ひとりが自ら取り組む「自助」、地域や身近にいる人同士が助け合って取り組む「共助」、国や地方公共団体などが取り組む「公助」が重要だと言われています。その中でも基本となるのは「自助」、一人ひとりが自分の身の安全を守ることです。特に災害が発生したときは、まず、自分が無事であることが最も重要です。「自助」に取り組むためには、まず、災害に備え、自分の家の安全対策をしておくとともに、家の外において地震や津波などに遭遇したときの、身の安全の守り方を知っておくことが必要です。また、身の安全を確保し、生き延びていくためには、水や食料などの備えをしておくことも必要です。

万が一に備え、非常持出品を揃えましょう。また、少なくとも1年に1回以上は保存期間や不足品等の確認を行い、必要に応じて補充や交換をしましょう。

大規模災害発生時には、「1週間分」の貯蓄が望ましいとされています。

<非常持出品の例>

- 貴重品類：現金、10円玉、預金通帳、印鑑、カード類、保険証、携帯電話
- 避難用具：携帯ラジオ、懐中電灯、予備電池
- 緊急用具：消毒液、傷薬、絆創膏、お薬手帳
- 非常食品・食器：非常食、飲料水、箸
- 衣類：下着類、防寒着、タオル
- 生活用品：万能ナイフ、マッチ、軍手、ビニール袋、ティッシュ

